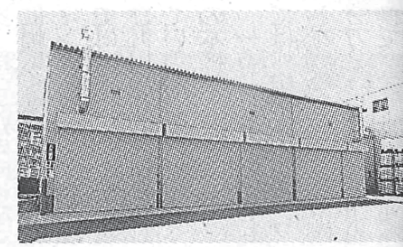


するなど未達に終わった前中計の売上高1000億円突破という目標に再挑戦する。環境・エネギーや医療・ヘルスケアなどの成長市場で新製品の開発を進め、2015年度に12年度比200億円の増収、経常利益100億円(12年度予想26億円)を目指す。150

明で、「売上高2000億円」という将来のありたい姿に向け、従来の延長線上にない大胆な取り組みに着手する」と宣言。その方策として①医療・医薬品分野の拡充②新規事業分野への進出③新たなM&Aの模索④水素社会到来に向けた準備一を挙げ、「売上高1000億円

タレット(PET)重合触媒、非ハロゲン系難燃剤のほか、応力発光体や「PA十十十」対応の紫外線対応化粧品材料を戦略商材として挙げており、超微粒子化や表面処理、有機合成など独自のコア技術を投入することで新規商材の大幅な増販を目指す。グローバル化

1100億円、経常利益80億円の達成を目標に掲げていた。しかし、震災のほか国内電機業界の低迷などの影響を受けて13年3月期は売上高800億円、経常利益26億円にとどまる見通し。昨年からの新規事業の開拓などによる事業基盤の再構築に本腰を入れ始めている。



鉄骨平屋建てで建築面積は約165平方メートル。新たに購入した尼崎工場(約5000平方メートル)の隣接地(約1980平方メートル)の一角に工費約3000万円を投じて設置した。尼崎工場では2002年に危険物製造プラントを設置したが普通倉庫しかなく、製造した危険物関

新用 日産化学工業は、新規に開発した原体で、アルテアを含む混合剤の販売を3月から開始した。量産体制ならびに安定供給体制の構築を機にアルテアの普及販売に注力し、農業化学品事業の拡大を目指す。

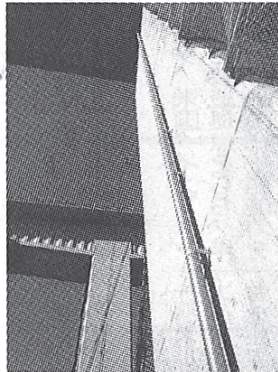
アルテアは従来のSU系除草剤と同様、植物の

ステンレス顔料入り塗料が劣化防止

橋梁の樹脂製排水管 耐久性高める新工法

化や都市部の景観対策などへの適用も期待できるといふ。橋梁の排水管に使用されるVPP管(硬質塩化ビニル管)やFRP管(繊維強化プラスチック管)は、紫外線劣化が進むと損傷が発生しやすくなる。両社が開発した新工法は、トーチのポリオレフィン樹脂塗料「タノクスステンコート」を排水管に塗ること、塗膜中のステンレス顔

中日本高速道路 トーチ



試験管設置された。新東名高速道路の建設中、両社が開発した新工法を適用し、排水管の劣化防止を図る。

料が紫外線や酸、アルカリ、塩害などによる劣化を防いで耐久性が向上する。ポリオレフィンの密着力が非常に強く

新東名で有効性確認

なる。研磨やプライマー処理を施すことなく直接塗装できるため、排水管を傷めず工程短縮にもつながる。タンクスステンコートを塩化ビニル樹脂(PVC)、FRP板に塗装(3回塗り)で膜厚100(μm)として500時間(屋外暴露15年相当)の促進耐候性試験を行った。その結果、外観や付着性、白亜化(塗膜の劣化)、塗膜強度、母材観察のいずれも

研磨・プライマー不要

も良好な結果が得られた。さらに、愛知県内で建設中の新東名高速道路野田川橋(仮称)にタンクスステンコートを工場塗装したVPP管(直径150mm)を設置。1年以上経過した後目視点検で特別な変化がないことを確認した。橋梁の構造は橋脚が高く、支間(橋脚間の距離)や横幅も広がる傾向にあり、維持管理作業は難しく、費用もかさむようになっていく。また損傷箇所から凍結防止剤などを含んだ水が漏れることで橋

が独自に開発した原体で、アルテアを含む混合剤の販売を3月から開始した。量産体制ならびに安定供給体制の構築を機にアルテアの普及販売に注力し、農業化学品事業の拡大を目指す。アルテアは従来のSU系除草剤と同様、植物の

CRの国内トップを目指す

ビスを活用した治験の第1弾が、数カ月以内にも開始される予定という。浦江社長兼会長は「研究会を頻繁に開催するこ

同社は昨年5月に、日本最大の医師会員数を誇る医療情報サイト「m3.com」を運営するエムスリーと資本・業務提携

であれば脳へ血液を流す血管がある弓部に留置できるステントグラフト、AAAであれば腎臓動脈や腸骨動脈への血流を維